すが、その方たちが地域の事業として活動する場合、横の連携は取れているのでしょうか。また壁がある場合、取り払える状況にあるのでしょうか。

内田　そういった壁がないとは言い切れませんが、それでも一部の方たちはそういった壁を取り払おうと、活動しておられます。

町長　多くの人が関心を持って「何か活動したい。社会の役に立ちたい」という潜在意識をもっていると思います。そういった人たちが入りやすく、親しみのある、また無理をしなくても活動できる雰囲気づくりが、これからの課題ですね。

長瀬　クミコさん

気軽に参加できる活動へ

神吉　高齢化ということを考えたとき、お互いに支えあいが必要であると考え、ボランティア活動に参加していますが、私とは対照的に技術的なボランティアをされている山田さんの場合は、いかがでしょうか。

山田　私の場合、ただやりたいからやっているだけでなんです。（笑）

海外と比べると日本のボランティアは、「覚悟を決めてかからなければならない」「途中でやめられない」といった雰囲気で何か入りにくい感じがあって、もっと気軽に参加できる雰囲気があればいいと思うのですが。

町長　ボランティア活動は本来、身構えてするものではないと思います。自分がしたいと思う気持ちがないとできませんから。使命感に駆られてするのではなく、空いている時間に気軽に参加できる活動、またそういったチャンスや場所に恵まれないと、山田さんの言われるような雰囲気・気持ちは育たないでしょう。

私は老若男女を問わず、気軽にボランティア活動に参加できるような雰囲気・気持ちを長い期間かけてでもつくり、育てたいと考えています。

長瀬　実際に、「ボランティア活動に若い人が入ってこない」ということを感じるのですが、魅力のあるボランティア活動、雰囲気を育てていくのが現在の重要な課題の一つでしょうね。

町長　若い人たちが気負わず入れるかどうかは、そういった雰囲気づくり、壁をつくらず誰でも入っていけるというものをつくれるかどうかにかかっています。

山田　孝子さん

自主的な気持ちで

山田　魅力的なボランティア活動を作って募集するというのも、ボランティア活動をしたいという人を引き出すにはいい方法であると思いますが、そうではない人たちにまで無理にしてくださいとは言いたくないですね。あくまで自主的な気持ちが大切ですから。

神吉　私も年齢が上の人たちの中に、飛び込んでいくのは難しいと思います。ですから逆に別の若い人たちのグループを育てるという考え方もあってもいいでしょうね。

しかし、私たちの若い時と違ってボランティア以外にもスポーツ、趣味など楽しいことがたくさんある時代ですから、その楽しいことをする気力の十分の一でも「ボランティアにまわしてみようか」と思ってもらえるような環境づくりをまず最初にすべきことかもしれません。

活動に報いるには

神吉　私はたまたまグループのリーダーをしており、「ボランティアは余った時間でできればいい」と考えていますが、ユーザーサイドの需要が多くなって、メンバーに無理をいって活動していただいています。そのとき「ご苦労さんやったね」と労をねぎらいたいのですが、例えば町の健康いきいきセンターでの無料入浴などはできないのでしょうか。

山田　利用者の方との間で、お金ではなく、何か充足感みたいなものはないのですか？

神吉　お母さん方から相談を受けたりして、信頼を得ているという現状でも、十分満たされていると思います。でもメンバーには実際、無理をきいてもらっている部分もあるので、やっぱりどこかで「ご苦労さん」とこの団体が続くようにしたいなと思っています。

善意と体力だけでは、三十、四十代の人たちには、同じように続けていっていただけないと思う面もありますしね。

内田　和久さん

町長　お互いが感謝しあったり、共鳴しあえればいいのですが、例えば痴ほう老人に対するボランティア活動は、一方通行で負担が重くなる傾向があります。ですからボランティア活動をしていくにも「何か満たされるもの」が必要なのではないでしょうか。それが、お金の場合もあるし、気持ちの場合もあるでしょう。そういったものがないと、ボランティア活動というものは続かないと思います。

山田　評価される、認められるということが大事であるということですね。

ポイント制度の検討

長瀬　ボランティアをすれば、例えば一時間1ポイントとして事前に登録し、いくらか貯まったら、先ほど神吉さんが言われたように、いきいきセンターのお風呂に入れるといった考えはどうでしょうか。そういったアイデアが次世代のボランティア活動を支えるのではないでしょうか？

神吉　どう評価するのかといった問題はあるのでしょうが、「ボランティアしていて良かった」と思える制度があってもいいと思います。

若い人たちは、自分が持っているものは提供するが、その代わり何か自分に得るものがなければ活動に参加しないのかなとも思います。ボランティアのポイント制度などが、ボランティア活動への参加のきっかけになればいいですよね。

町長　皆さんおっしゃるように、ボランティアのポイント制度など住民の皆さんで考えていただきたいと思います。また行政はそういった発案に応えていかなければならないともいえます。

この機会に、ぜひ皆さんで知恵を出しあってほしいと思います。

全員　一度みんなで考えてみましょう。

町長　目に見えないところでボランティア活動している人は多いと思います。

そういった人たちを大切にして、これからは人を育てる、心を育てるのが大事だと考えています。ですから、意見や提案があれば、どんどんおっしゃってください。